



平成29年度

保健師等スキルアップ勉強会報告書

平成30年2月20日 特定非営利活動法人地域福祉ネットワークいわき事務局

今回の勉強会では、既存データの分析結果を全体で共有し、各自で今年度の学びと次年度の取り組みたいことを整理しました。

勉強会の学び

勉強会の前半では、第1回から4回までの復習を行い、高齢者保健および地域をみるために重要な視点を再度確認しました。その後、地域診断に必要となる既存データの分析結果を全体で共有し、グループごとに考察しました。これまでの保健活動で得た経験をもとに様々な角度から結果を解釈することができました。



▲既存データの分析結果をグループごとに解釈しました。

次年度取り組みたいこと

後半は、今年度の勉強会の学びと次年度取り組みたいことについて整理しました。地域診断は保健師にとってたいへん重要な看護技術の一つです。次年度、今年度1年間かけて習得した知識と技術を活用したいとの希望がありました。



▲積極的にグループワークに参加されていました。

勉強会の評価（3月）

今年度の勉強会の評価は3月に保健師会議の委員長と副委員長、福島医大の講師で行います。参加者から集めた意見に基づき、今年度の成果と来年度に向けての課題を検討します。

講師紹介

福島県立医科大学医学部
健康リスクコミュニケーション学講座

*略歴：同志社大学大学院 心理学研究科 博士後期課程修了（心理学博士）。帝塚山大学心理学部の非常勤講師、大阪府立大学スクールソーシャルワーク評価支援研究所の非常勤研究員を経て、現在は福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の特別研究員。

*専門領域：社会心理学、社会的認知、集団間関係

小林智之 特別研究員



*略歴：福島県立医科大学大学院医学研究科修士課程修了。保健師・大学教員の経験を得て、平成29年4月から福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座の保健技師、大学非常勤講師、保健センターに勤務している。

*専門領域：母子保健（特に父親の育児）、高齢者保健、国際保健（カンボジアの子どもを対象とした健康教育）

吉田和樹 保健技師



アンケート集計結果

参加者は13名、アンケート回収は12名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について	
配布資料は適切だった	100%
時間配分は適切だった	83%
進行は適切だった	100%
講義について	
講義内容が理解できた	83%
講義は今後の保健活動に役立つと思う	92%
学んだことを同僚に伝えたいと思う	83%
話し合いについて	
話し合いは今後の保健活動に役立つと思う	100%
あなたご自身について	
研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う	67%
研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う	67%

学び（一部抜粋）

- * 地区診断の重要性や必要性について再確認できた。保健師活動の可視化について意識することができた。
- * 地区データの読み取り方法。アンケートやグラフを使用してのデータまとめ方。
- * リスクコミュニケーション。事業を開始していく上での基礎や応用。

*5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

* 復習ポイント *

- ・勉強会のまとめ（5つの重要点）
- ・地域包括支援センターの保健師に求められる知識と技術とは
- ・リスクコミュニケーションとは



▲限られた時間の中での発表でしたが、各グループ工夫して発表されていました。

編集後記

本勉強会は、年5回開催しました。急速な高齢化に伴い、保健師の得意とする地域に根づく保健活動（介護予防）を、根拠に基づき、計画、実施、評価することは重要です。さらに、地域住民や関係機関と介護予防について考えることで介護予防に関する意識を高めることにもつながると思います。私も1年間保健師の皆さんから活動の様子を伺い、効果的な保健活動の実践を目指し、努力しようという思いが強くなりました。本勉強会の評価には量的データだけでなく、質的データ（保健師の皆さんからいただいたご意見：学びと次年度取り組みたいこと）を用います。評価については後日ご報告します。（吉田）